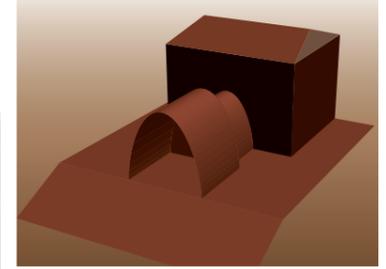


横穴墓が語る、島根の地域性
〜五種類の横穴墓が示すもの〜



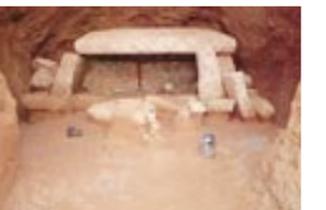
六世紀中ごろ、島根県に伝わった初期の横穴墓は、全県的に丸い天井で狭い墓道が付くという、同じような形をしています。ところが六世紀の終りごろになると、地域によって横穴墓の様子が異なってきます。現在の地域性にもつながるこの横穴墓の特徴を、ここでは五つの地域に分けて紹介します。

出雲東部の横穴墓



安来市から松江市にかけての横穴墓は、造りが大きいものが多いようです。奥の部屋は天井が家形で平入りのものが多く、ときには石棺を納めたり、立派な副葬品を持つものもあります。部屋の前には祭りの場として大きな前庭が作られます。全体の形は当時の出雲東部の首長墓の石棺式石室とよく似ており、この形の横穴墓が多く造られる範囲が、のちの意宇郡（現在の松江市・安来市および八束郡の南半地域。詳しくは巻を参照）と重なっています。

御津貝塚横穴墓群 (鹿島町御津)
林道工事中に発見された横穴墓群。9穴のうち4穴を調査。人骨や須恵器などが出土した。



奥山横穴墓群 (松江市上乃木町)
島根女子短大建設に伴い、2穴を調査。花模様を刻んだ大きな刀などが出土。



淡山池横穴墓群 (東出雲町揖屋)
安来道路建設に伴って15穴が調査され、九州に関連する変わった石棺や珍しい陶棺(焼き物で造られた棺)も出てきた。



花立横穴墓群 (玉湯町花立)
住宅団地建設に伴い4穴を調査。うち2つの横穴墓で石棺が見つかった。「白来待」と呼ばれる、白いきれいな石が使われている。



白コクリ横穴墓群 (安来市佐久保町)
安来道路建設に伴い、14穴を調査。石棺を持つ横穴が3穴もあり、金銅装の刀など、立派な副葬品も出土している。



中竹矢横穴墓群 (松江市竹矢町)
島根では古い形の横穴墓。横穴墓の上に、古墳と同様の高まり(墳丘)も発見された。松江道路建設に伴い調査。



古城山横穴墓群 (東出雲町出雲郷)
学校の建設に伴い、5穴の横穴墓を調査。

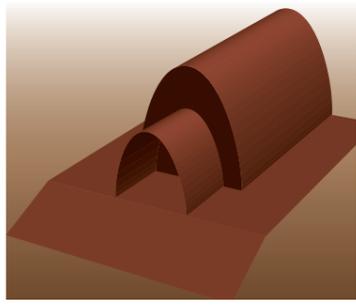


島田池横穴墓群 (東出雲町出雲郷)
安来道路建設に伴い、30穴以上の横穴墓を調査。墳丘を持つものも多し。

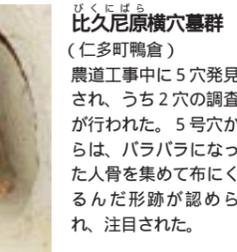


菅沢谷横穴墓群 (松江市乃白町)
工業団地の建設に伴い調査。石棺を置く横穴墓もあった。

奥出雲の横穴墓



奥出雲の横穴墓は、「うなぎの寝床」のように奥に長く、天井はテントのように三角形です。水はけの良い花崗岩地帯のためか、人骨の保存状態が良いものが多く、当時の家族関係などを知るうえで、貴重な資料を提供しています。



比久尼原横穴墓群 (仁多町鴨倉)
農道工事中に5穴発見され、うち2穴の調査が行われた。5号穴からは、バラバラになった人骨を集めて布にくるんだ形跡が認められ、注目された。



川子原横穴墓 (仁多町川子原)
採土中に発見、調査された。2体の人骨とともに、馬具や大刀などの副葬品も出土。

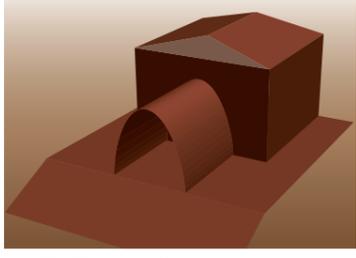


東下谷横穴墓群 (三刀屋町中野)
道路工事中に6穴発見されたが、うち3穴はすでにない。6号穴は骨の残りが良く、5体の人骨が折り重なるようにして出土した。



角・宮ノ峠横穴墓 (横田町横田)
農地造成工事中に発見された。女性2体の人骨が並んで発見された。

出雲西部の横穴墓



出雲市周辺の横穴墓は、天井が家形で妻入りのものが多いのが特徴です。加工が丁寧なものも多く、工具で削った跡がよくわかるものもあります。



尾崎横穴墓群 (佐田町宮内)
道路工事に先立って、16穴を調査。奥の部屋は縦長で、壁には特徴のある肋骨状の削り跡が残っていたものもある。



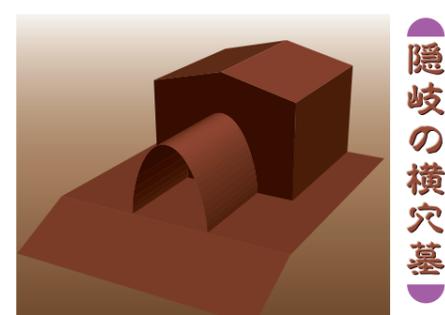
地藏堂横穴墓群 (出雲市下古志町)
農道工事中に発見され、3穴を調査。出雲市周辺では比較的古い横穴墓で、奥の部屋が細長く、天井は丸い。



平野横穴墓群 (斐川町上直江)
工場建設に伴い、19穴を調査。未調査のものを含めると30近い横穴墓が造られたと考えられる。



神門横穴墓群 (出雲市知井宮町)
全部で100穴以上はある、巨大な横穴墓群。そのうち20穴以上が、河川工事のため調査された。中には壁を肋骨のように削った跡の残る横穴墓もあった。



隠岐の横穴墓

隠岐にも多くの横穴墓がありますが、出雲部ほど調査例は多くありません。奥の部屋の天井は家形で、出雲部と似ていますが、出雲部ではあまり出ないもの(あわびや大量の玉など)も出土します。

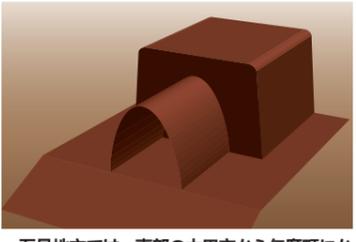


来居横穴墓群 (西ノ島町美田)
道路建設で8穴が調査され、今は道路脇の斜面に1穴開いている。天井が家形で整ったものもあり、刀なども出土している。



御崎横穴墓群 (知夫村薄毛)
くずれた崖面の復旧工事に伴い、4穴を調査。そのうち1穴からあわびの貝がらが出土し、注目された。あわびは、奈良時代に隠岐から中央政府へ献上された品として有名。

石見の横穴墓



石見地方では、東部の大田市から仁摩町にかけて、益田市周辺で多く横穴墓が造られ、山間部でも点々と横穴墓が調査されています。規模は小さく、天井が平らなものが多いのが特徴です。



江迫横穴墓群 (瑞穂町淀原)
草地の造成工事中に発見され、3穴を調査。奥の部屋の形は正方形に近く、天井が家形で妻入りの点など、出雲西部の横穴墓に似ている。うち1号穴では、通常は腐ってしまう木の棺が残っていたり、ドブ貝の貝殻が出土するなど、貴重な資料となった。



北長廻横穴墓群 (益田市北長廻町)
採土工事に伴い、数回にわたって調査。かなりの横穴墓が集中していたと推測される。

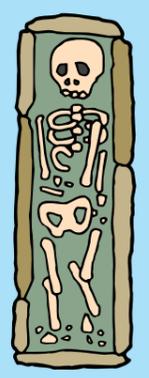


松田谷横穴墓群 (大田市波根町)
農業大学校建設に伴い調査。15穴が調査され、刀や玉類などが出土した。



諸友大師山横穴墓群 (大田市久手町)
15穴からなる横穴墓群で、その一部が道路工事にかかっている。刀などととも、多くの玉類が出土している。

発掘ごぼれ話
骨



横穴墓は墓ですから、条件がよければ人骨が出てきます。ちなみに島根県で最も古い人骨の発掘例は、縄文時代晩期(約3000年前)にまでさかのぼります。人骨は、直接土をかぶっていないと残りやすいようで、くに花崗岩地帯である奥出雲の横穴墓からは、残りの良い骨がしばしば出てきます。頭蓋骨から指の先まで残っていることもあり、「ここまでくると、まるで学校の理科室にある人体標本のようで、気味の悪さはあまり感じません。それでも骨というのはやはり気持ち悪いもので、たいいてい人は横穴墓に入りたがりません。しかたなく骨を掘ることになるのですが、横穴墓からはしばしば、苦むしたような妙なにおいがすることがあります。「墓のにおい」と言えはわかるでしょうか。これが体につくと、なかなか取れず大変です。

なにかとやっかいな古代の骨ですが、歴史を明らかにするうえで、実に多くの貴重な情報を持っています。骨や歯の特徴から血縁関係も探れるし、古代人の病気もわかるようになってきます。近い将来、DNA分析によって葬られた人の遺伝情報までわかる日も来ることでしょう。